

第 2 回青木村長期振興計画審議会会議録

1. 会議概要

(1) 開催日時：平成 28 年 10 月 13 日（木） 10：00～11：45

(2) 開催場所：青木村役場 2 階 会議室 1

(3) 出席者 委員：沓掛（英）会長、増田委員、古澤委員、清水（恒）委員（代理）、高橋委員、久保委員、岩下（竜）委員、上原委員、清水（よ）委員、坂井委員、塩澤委員、遠藤委員、成田委員、塚田委員、沓掛（貞）委員、増田尚委員

オブザーバー：神原長野県地域政策課長

村側（事務局）：北村村長、井古田企画課長、塩澤事業推進室係長
株式会社 K R C 小林、長峯

欠席者 委員：岩下（勇）副会長、奈良本委員

(4) 次第

1 開会

2 村長あいさつ

3 協議事項

(1) 経過報告と論点説明

資料 1

① 前回会議の意見確認

資料 2

② アンケートの結果報告

資料 3

③ 後期基本計画素案内容

資料 4

(2) 素案内容等の審議

4 今後の予定

5 閉会

(5) 提示資料

資料 1：第 2 回審議会の論点シート

資料 2：第 1 回青木村長期振興計画審議会会議録

資料 3：住民アンケートの調査票及び設問 9・10 の単純集計の結果

資料 4：第 5 次青木村長期振興計画後期基本計画（素案）

2. 各委員からの意見

事前配布の意見記入シートをもとに、各委員からお一人ずつ順に出していただいたご意見を以下にまとめました。主な内容（要点、キーワード等）には太字波線を付けています。

○前回の審議会で、前期5か年を振り返る中で後期5年の方向性を決めるということをご大事にさせていただきたいという意見を述べさせていただいたが、本日のアンケート等を見させていただいて、様々な観点から、特に年代別だとか、東京23区の方の意見だとか、村外在住経験者だとか、多様な視点からまとめていただいて説得力があるなど感じた。

その中から出てきたのは、強みとしては自然に親しむ環境や子供を育てる環境。一方で若者の定住、便利に暮らす環境といった課題がはっきり見えてきたと思う。よって全体構成については今のところが重点の1から4までにしっかりと位置付いているということを感じた。特に1、2についてはこのようなことを中心に若者の定住に力を入れていく、また3、4については強みである教育をさらに伸ばし、地域医療についても力を入れていくということが説得力を持って読ませていただいた。私はこの方向性で良いと感じた。

○後期基本計画素案については、6つの施策、方向性には賛成である。

以前、村外の若い母親の保護者の方が文化会の終わりの直前に、青木村は学校でこんないいことをやっている。村からの補助金もこんなものがあるよと他の小学校の保護者に意見を言っていたととてもうれしかった。特に2クラス化といったところ。村外の方からの評価の場を上手く利用させていただいて推進していただければと思う。その母親は上田市の方だったが、誰から聞いたのかと尋ねたところ、青木村の保護者から直接聞いているということだった。補助金の関係や子育てをするなら青木村、住みたい村日本一というようなこと。色々な施策をやっているので評価する場、PRする場を作っていただきたい。若い母親と話をする中で、子供の就労の場に私も将来の不安を感じている。子供の数が減っているので2クラスにということよりも、子供たちが将来働く場があるのかということ強く言っている。今年度から中学校でも進路セミナーを新設して村内で活躍されている一生懸命働いている方のお話を聞く場を設けている。そういったことを通して村に住んで、ここや上田市で働いて、ここで子育てをして生活している皆さんから元気をいただくといったような教育活動の場を設けている。ぜひ企業の誘致だとか就労の場を設けていただければありがたいと思う。

○今回の素案で重点推進事業を非常に具体的に、明確に出てきている。自分たちが向かう方向が出てきて、良いことだなと感じている。

その中で、私たち自身でできることは何かと考えたときに、特に道の駅を中心にプロジェクトを組んでいく。そこに付随して国道143号のトンネルが開いたときの10年後、20年後を考えていくというところで、特に道の駅に関しては、JAとしても第8次中期3か年計画を策定した中で、この青木村の農業はどのような状況なのかということ、非常に小規模農家も多いということ、直売所の会員を増やすこと、定年になって入ってきて農業をする定年帰農者などを中心とした多様な担い手によってどのような作物を作ったらいいのかといったような側面から農協としても全面的に協力していこうということと3か年計画の中にも入れてある。そのような面から信州青木村産の農作物のイメージ

を確立する手伝いができればいいのかなと思う。自分たちの立場で村に対してどのようなことができるかといった側面を考えながら、重点推進事業に関わっていければと思う。

- 全体構成については、この素案の段階でとてもわかりやすく、目を通すことが嫌になるということもなくすんなり読めるようなものになっている。これが更に改善されていくのであれば言うことはないのではと思う。

記述アンケートについて、どうしても記述となると意見の声の大きさが分からない、どこまで思ってもらっちゃるかという気持ちが伝わらない部分があって並列で並んでしまいが、その中で声の大きさが分かるようなものがあれば良いかなと思う。

今後のことを考えた上で、30代の男性の方の意見にあるように、外へのアピールが必要になってくると思う。どうしても村民に対する基本計画なので内に向けての発信になると思うが、校長先生もおっしゃっていたように、村外の方がどう見ているかどうか、どう思われているかといったことにもう少し注視していけば新たなアイデアが生まれてくるのではと思う。

- 後期基本計画の素案の全体構成についてだが、事業その1を達成するために事業その2が重要になり、その背景として人口増加、人口維持を達成し次世代につながる事業として、その3として教育が必要。さらに事業その4により村全体の健康増進を図るというように、4つの事業が別々に成り立っているのではなくて流れとして面的に繋がって村が進んでいく方向性が見て取れたと感じたのでとても見やすく、この流れをさらに深く追求していけたら面白いと思う。

一つあるとするならば、どうしても外からのお金の流れとか力の流れとか、移住者や道の駅にくる方といったように、外からの流れに頼らざるを得ないというのが先立ってしまっている。もう少し村にいる方の力とかを動かすというのを上手く使えていけると、いま村にいる方たちの理解も得られるのではないかと感じた。

それに付随してお願いしたいことは、消防団を預かっている立場ということもあるが若い世代との付き合いが多いので、いま村で頑張っている若い方の想像力や起業力といったものを活かす方向性を模索していきたいと思う。いま苦慮しているのが、村の中にある12地区という村の中の村意識というものを若者が抱えながら、村全体をどう捉えていくかという2つのことを並列して成り立たせようと頑張っているのが、その村の中の村意識を若者がもうちょっと捉えやすいように、例えば各地区の若者が地区の中で活かせる起業力を育てるために、チャレンジ基金のように、村が地区に50万出すからその50万を使って若者が地区を盛り上げないか、といったようないまいる若者を活かして村の中でチャレンジしていける仕組みがあれば面白いのではと思う。いまいる若者の想像力、起業力を信じて活かすというのを盛り込んで頂ければと思う。

- 健康寿命というお話があったが、これは私自身も問われる問題でもある。肉体的年齢が長寿であっても、健康で元気に歳をとってきれいなお年寄りになりたいというのが我々の願いである。高齢者ということになれば介護等といったように負の遺産的なものを背負い込んでいるような年齢になるが、もう少し明るく生きていきたいと思う。高齢社会で一億総活躍社会といっているのが、ボランティア活動等の自主的な活動もあるが、活躍の場というのを明記してもらえるとありがたい。今後ますます高齢化が進んでいくの

で活躍の場を与えていただければと思う。

地域資源はページのこともあると思うが、私は文化財にいろいろ関わっているが、江戸時代に五街道の上田藩の藩政改革をした我々の先祖で、自らの命を犠牲にして戦った尊い人達がいる。なので、この義民史跡の活用をしていきたい。上田市から入ってくると義民の里青木という立派な木柱が立っているのでその辺の活用もしていただきたい。これだけの文化財がある村はないと思う。例えば国宝が1つ、重要文化財が3つ、県宝が4つ、村宝はたくさんある。これらを有機的に上手く活用して、ハードな部分はトンネルがあるので、ソフト部分の活用も大事だと思う。もう書くところがないと言われればそれまでだが、義民史跡や文化財の活用もぜひ加えていただきたい。観光客が村松に来て館跡はどこだと聞かれて50メートルも離れていないところなのに知らないといった方がいたそうで、青木村の村民は義民の里くらいは知識を持っていただきたい。特に役場の方は全員が案内人になるくらいの気持ちでやっていただきたい。

○大変色々な分野を載せていただいて全体がよくまとまっており、これからつくっていく上で参考になると思う。

女性としての立場で意見を述べさせていただくと、災害が大変多くなっていて、災害への知識や対策を考えていただいていると思うが、以前災害があった時に県や村の方はやっていただいたが、青木村の赤十字の方々は場所を全然知らなかったという。災害に対してはこれからのことだと思うが、その時は炊き出し等なかったので良かったが、今後大きい災害があって炊き出し等を行わなくてはいけないときに私は知りませんでした。ではせっかく赤十字という大きな団体がある意味がない。私としては各地区にそういう方にいていただきたい。男性の方は消防団等をやっておられると思うが、赤十字は女性だけが行うものではないということを考えていただきたい。これからどんな災害が起こるかわからないのでそういったことを取り入れていただければありがたいと思う。

また女性や若者、高齢者の働く場所について、定年退職して60歳で仕事を止めてこれからどうしようかとなったとき、また子育てをしている方の空いた時間を活用しようということで団体を立ち上げたが、いま人数が減ってきてしまっている。定住者を受け入れるということを村でも掲げているので、そういうような場所も働く場の一つとして取り上げていただきたい。

○この素案は大変良くまとめていただいたと思う。素案の全体構成だが、組み立てや方向性は良いと思う。全体の方向性として「日本一住みたい村」になるというところを目指して住民と行政が一丸となって村づくりをしていくとあるが、住民が村づくりの方向性を理解していることが大事だと思う。一部の人だけでなく、広報等あらゆる手段で繰り返し説明し関心を高め、理解した上で村づくりをすることが重要だと思う。

視点1だが、これからの5か年だけではなく、10年、20年先を見据えることが大事だと思う。自分で地域の10年、20年先を考えたときに課題はとても多い。土地一つをとってみても、土地を持っていることが重みであり負担であり、これは私だけではなく多くの人から聞く意見である。土地利用計画の中で少しでもこの解決策が見つけられたらよいと思う。

また、課題を踏まえて力を入れるべき点だが、活気のある村にするためにも少子化対策や村に住んでくれる人を増やして人口減少を止めることだと思うが、多くの自治体が

同じような政策をしている中で青木村に移住者を増やすということはとても大変な取り組みだと思う。そんな中で青木村の魅力の発信、PR等のやっただけにしている取り組みを続けていただくことは必要だと思う。アンケートの結果を見せていただいて、若者の生活する環境や便利に暮らす環境にやはり課題があることが分かった。例えば便利に暮らす環境の一例だが、道の駅の取り扱い品目を増やして、スーパーに近いような役割をできたらよいと思う。このようなこともあるので今後道の駅にかかる期待も大きい。

- 全体の構成についてだが、人口のところは目標人口ということで、目標というのは人口だけのように若干感じてしまった。重点推進事業の中でいえば具体的な目標が示されているので、わかりやすい指標を出していただきたい。

個人的には社会福祉を掘り下げると、村の質が上がっていくと思うのでその辺も少し入れていただければと思う。関連しているのは重点施策のその4である。ここに少し付け加えていただければと思うのが、社会的な健康についてである。体が健康だけではなく、心も健康ということである。そのような健康についての取り組みも前面に出していただければと思う。具体的にいうと、人的資源の充実という言葉を入れていただきたいと思う。スマホやインターネットを利活用できるよう、また詐欺に合わないよう金融商品の知識を広めるといったところに力を入れていただきたい。

また、認知症サポーターだとか市民後見人のようなボランティアに繋がっていくような講座を積極的に実施していただきたいと思う。

アンケートの関係では、やはり医療と交通の面が良くないということで、医療に関しては遠隔医療で長野や松本の病院とのテレコミュニケーションと訪問看護を組み合わせた形をとればと思う。

交通の便については移動支援が重要である。バス停に行くまでも大変な方がいらっしゃると思うので、直接お宅まで伺うことをしていきたい。地域支え合い事業というのが進んできているので、そのメンバーの方と関連づけながら移動支援が充実したら良いと思う。

- 基本計画の素案で村の方向性が理解できた。その中で、前回の審議会の中でも申し上げたと思うが、この方向性ができた上で、何をどのように具体的な実施計画が策定されていくのか、あるいは中身が見えてくるのかというのが、おそらく皆さんが思っていることだと思う。資料4の最初の方にも実施計画については別途策定するものとするということで毎年見直しを行うということでまとめられている。

その中で考えるのは、いままで皆で努力して一生懸命直売所へ出すものを考えたりしてきたわけだが、その延長線でさらに今度新しい道の駅ができるということなので、その立派な施設の中身をどうするかという具体策が来年の連休のオープンするまでに早急に皆で検討していかねばと思う。その中でさらに新たな視点も示す必要があると思う。農業、道の駅の関係で、生産者のやる気が出る組織をいち早く立ち上げていただきたいと思う。いままでも皆が努力してきたわけだが、さらに今回のようなチャンスに具体的なものをやっっていくという意気込みが欲しいと思う。

私も農業をしている中で、作物カルテというものを作ったらどうかと思う。医者にもカルテがあるように、農産物にもカルテを示して実効性を上げるような取り組みをしてはどうかと思う。

また、あおきっ子の小中学生の2クラス化において、やはりキーポイントは移住対策だと思う。最近、移住対策でひとり親を対象にしたものを行ったということで、移住対策はどこでもやっていることなので、その中でターゲットを絞ることが大事だと思う。私が思う移住対策のターゲットとしては、青木村で有機農産物の生産をやるんだという方、アレルギーやアトピーの問題がいま健康問題としてよく言われているので、青木村に行けば有機農産物ができるというような具体策があれば生産者の中のやる気のある人が出てくれば良いと思う。

また、観光の面で、田沢温泉や沓掛温泉があるが、最近私もテレビで知ったのがグランピングをして集客をしたらどうかと思う。このグランピングは星野リゾートがちょうど一年前に始めたところから全国展開しているので、そのようなことも考えてみたらどうかと思う。また上田市を中心に真田丸の効果が大きいと言われているが、果たして青木村では真田丸効果がどんな動向なのか聞かせていただきたいと思う。

- 全体的な構成は良いのではないかと思うが、これを貰った人が果たして最初から最後まで読むかというそれは難しい話だと思う。どうやってこれを上手く読ませるかということを考えなくてはいけない。特に若者が読まないことにはどうにもならない。我々年寄りばかりが読んで10年後、20年後というよりも若者が読んでどうすればよいか検討するような視点でもう一回考えていかななくてはいけない。

地域資源の関係だが、目に付いたのが義民の里で、よく聞いてみればすごい村だと感じた。改めてスペースの有り無しに関わらず、義民の村という資源をアピールしていただきたい。

また子供の教育についても同様である。こういう祖先がいたからこそこの村ができ上がったことを考え、将来子供たちが引き継いでいくということで盛り上げて言っていただきたい。いまでいう受け身の若者ではないが、ここに来れば何かあるということではなくて、何をするためにここへ来たかというようにしていただきたい。青木に来ればこういうことができる、夢が実現するということをやっていただきたい。こういう青木に来たからこそこういうことができるじゃないかという夢を持った若者に来ていただきたい。

あるいは年寄りもそうだが、元気な年寄りはたくさんいるわけだから、50や60歳超えても元気で何かをやり青木村へ来たという人を引き込めるような施策を十分にやっていただきたい。先ほどどういう人を引き込むか対象を絞るという話もあったが、色々な所でもやっていると思うが、私は企業を興す、仕事を興すような人を呼び込んで、自然はあるしスペースはあるしそれなりの人もいるわけだから、そういうことをやりたい人を応援し、企業を興してもらおうということをやっていただきたい。

また、この計画の中で最も重要なのが道の駅あおきである。直売所でただ農産物を売ればよいということではなくて、注文を受けて配達までしてはどうかというところまできている。いまの段階で生産者の委員会ですういうことができるかという体制にまでなっているので、よくよく実態を把握していただいて今後どうするかということを検討していただきたい。全体的に色々な機能を付与したときの実現体制がとれるような組織になっているかどうかよくよく実態把握をしていただいて検討していただければと思う。

○全体の構成だが、資料1の10ページに分野別の施策があるが、色々これからやっていく中で調査研究が必要になると思うので改めて検討していただきたい。

また資料3の33ページの2番の健康管理と8番の国民健康保険の内容が多少かぶっているので、まとめられるのであればまとめた方がよいのではと思う。

また41ページの観光だが、青木村の郷土料理、伝統工芸、伝統文化等の体験を入れてはどうかと思う。また民宿を新たに開業する方への支援や、標識の外国語版の導入をされてはどうかと思う。

環境のうちの自然環境だが、青木村は平地から高山性の各種の貴重な動植物が生存する環境にあるので、この自然環境の重要度マップのようなものを検討されてそれに基づいて行われてはいかがか。

新トンネル事業に関しても、県の各アセスメント条例の対象になる可能性があると思うので、そうすると計画段階から環境への配慮が必要になる。何にしても村としては、環境に配慮した道路のモデル例を出していく必要があるのではないかと。

3番目の住民アンケートだが、5年前と比べて暮らしやすくなったと感じる方も3割程度いて、全体的に活性化の成果が表れているのではないかと。若者の働く場に関して、鍼灸院をやっても成り立つように、企業誘致を進めて欲しい。村全体が高齢化する中で、自然を楽しめる村づくりを色々な観点で進めて欲しい。

○素案についてはよいと思うが、やはり若い人たちは文章を読む時間もないというところは目に付いたので、もう少し見やすくなればよいと思う。

商工会の青年部の部長をやっていてよその若い人達と会う機会があるが、これから一人で企業を興してやっていきたいという人が上田市や長野県全体にも多くいるので、そういう人達をターゲットにして場所の提供や支援をして若い人たちが来れば、それに付随して奥さんや子供もついてくるのではと思う。

青年部の部長をやっていると長野県全体にも関わることが多く、よその自治体の方の意見を聞いたりしてまとめると、青木村もお年寄りをターゲットにするだけでなく若者をターゲットにしていかないと人口が今後伸び悩むというのは非常に感じる。若い人たちでも自分でやりたいという意欲がある人でないと、なかなか定着してくれないのかなと思う。若い人たちの中には地区のことをやりたいという方も残っている村民の中にはいるので、そういうところで繋がりがなくなっているということを考えれば地域の人ともう少し交流できるように何かサポートができればよいと思う。

○後期基本計画等資料を説明していただいて、青木のことは分かっているつもりだったが改めて聞いて文字を読むとなるほどと思うことが多々あった。改めて青木村の長期振興計画とは何だろうと思うと、それは青木村を元気にするということなのかなと思う。

そのためには若者になるべく青木村に来てもらう、自分も1年前に青木村に来てこれからは造園屋としてやっていきたいと思うが、そのときに起業の支援を手厚くしてくれたら大分気持ちは楽になると思う。

また住居が青木村には少ないので、住む場所の支援も手厚くできたらよいと思う。

○まずこの計画の素案の部分だが、アンケートをもとに村政の重点課題が細かく分析され、そうした課題をもとに重点推進事業が設定され、さらに具体的な施策が6つの分野に示さ

れているという構成だが、全体的にはよく精査されているのではないかと感じた。重点推進プロジェクトの具体的な中身に関しては今後の議論の中でさらに明確になっていくと思う。

また、先ほどからの委員の皆さんからの発言だが、まさに青木村に活かすものとしての視点で、雇用、産業、移住、観光等、大変貴重な意見要望が出されたと思う。このまま基本計画の核となる部分で非常に参考になる意見をいただいたと思う。

青木村は自立の道を選んだということだが、先ほども話にあったように現在、「日本一住みたい田舎」として大変高い評価が得られているということを踏まえて、さらに住民の地域に根差した声を、今後、地区で住民懇談会を実施するというのを聞いているが、ニーズをできる限り汲み取り、地域のニーズに合った独自の施策を官民一体となって進めていきたいと思う。

県としても、委員の皆さんの中には既にご存知の方もいるかもしれないが、来年度現在の地方事務所を振興局という形で改正していこうという検討が出されている。この改正についてはただ単に地方事務所を地域振興局と名称を変えるのではなく、これまであまりなかったが今後新たに局長の予算の執行権限だとか、現在は縦割りになっている建設事務所及び保健福祉事務所といったものに跨るような横断的なものを局長が統括する権限が付与される。地域の課題は地域で解決できるようなものにしていこうということで検討されている。県としてもこれまで以上に皆さんの意見や要望に応えられる機関になって行こうと思っているのでよろしくお願ひしたい。

○先ほども話したが、色々なことが青木の中で起きてそれぞれ活動しているという方もおいでになり、問題もあるかと思う。そういうものをきめ細かく一々やってられないということもあるかもしれないが、少なくともここで重点的に取り上げている点に関しては役場の方も十分承知をして対応してもらいたいということが一件あるのであえて申し上げる。

この中に自然環境だとか生活環境だとかあると思うが、ここに清潔で住みよい生活環境を云々とは言っていて、上下水道の完備をさせていただいたが、公園の水路でサンマが泳いでいたという話があるらしい。その他にも豆腐が流れてきたとか、注文もしないそうめんが流れてきたとか、そういうことがあるそうだ。その先の田んぼの方も前からそんなことがあって困っていたところ、たまたま管理をしていた方が認知をして役場へ相談に行ったそうだ。しかし、役場の方は下水だから流れるのは仕方がないだろうという話であえて問題にしなかったという。言いに行った方はえらく憤慨していた。当然役場の方も多少はご存じだと思うが、そういう細かい所で生活環境あるいは農産地の管理を大事に重点的にやっているところを役場の方がしっかり把握していただいて、こういうことがあればなんでそんなものが流れてくるんだということを徹底的に解明していくような努力というか姿勢が大事だと思う。あえて色んな面での実態を、道の駅の関係だけではなく、把握して、今までここでどういう人たちがどういう活動をしているか、それをどういうふうにして連携を努めていけば若者と年寄りが一体となって村を盛り上げていけるのか実態を把握しながら取り組んでいただきたい。

○最後に発言のあった遠藤さんの発言だが、薩摩には「片方だけ聞いて沙汰すな」という言葉がある。遠藤さんは地主の方からだけ聞いたお話だったと思うが、役場ではその件を警察にも相談に行っており、現在、警察で調査中である。

それぞれ個々の委員さんから貴重な意見をいただき、メリハリをもっとつけなければいけないとか、気が付かなかった点についても意見をいただいた。その中で、若い人たちや働く場の話がたくさん出されたのでそれについて3つだけお話ししたいと思います。

働く場は工場だけではないが、トップセールスを色々とやってきた。そうした中で、ここ最近、村内に工場用地を求める声もいただいている。もう一つ働く場については、青木峠新トンネルができればここから松本まで34分で行けるということで、通勤通学もできるようになるので、松本市の皆さんに特急バスというか、そんなにたくさん停まらないで自家用車と同じ時間で行けるくらいのバスを通してくれないかという話も既にしている。

そこで青木峠新トンネルがいつ開くかということだが、県も私もわからないが、私の希望としては平成33年に三才山トンネルが無料になるということで、これにより交通量の分散が考えられる。おそらく県はその辺をターゲットにして考えてくれているのではないかと考えている。ちょうど7年後というと、この前、伊那谷と木曾谷を結ぶ権兵衛峠トンネルを委員さんたちと見に行ったが、そこでは一年間で750メートルくらい掘り進んだということなので、掘り始めればそう時間はかからない。

また、若い人たちの働く場、いわゆる外から来る人たちの働く場ということで、東京との時間距離で私は外にいたのでよくわかるが、ここは東京に意外と近い。2桁台の方が東京へ通勤している。そうすると新幹線の東京と上田の距離をもっと縮められないかとなる。これはお金の話になってしまうが、知事にも3回ほどお話ししている。現在、高崎・大宮間が時速245kmもしくは250m、大宮・東京が時速110kmである。この時間を縮められないか。私は埼玉にいたので課題はよく承知しているが、JRは飛行機と競争するのだからもっと短縮化することを色々考えてくれると思う。これが5分でも6分でも近くなれば、上田や青木のステータスは相当上がってくると思う。まだ私だけの話だが、埼玉県では本庄早稲田という意見があって、埼玉県議会ではその件の質問者に対して、知事は前向きにやっていきたいと答弁している。埼玉県の知事さんには一生懸命、東日本の知事さんたちを束ねてやってくださいと。上田が東京に近くなれば青木ももっとステータスが上がるということでやっている。以上、貴重なご意見皆さんありがとうございました。